

# ふるさとの歩み

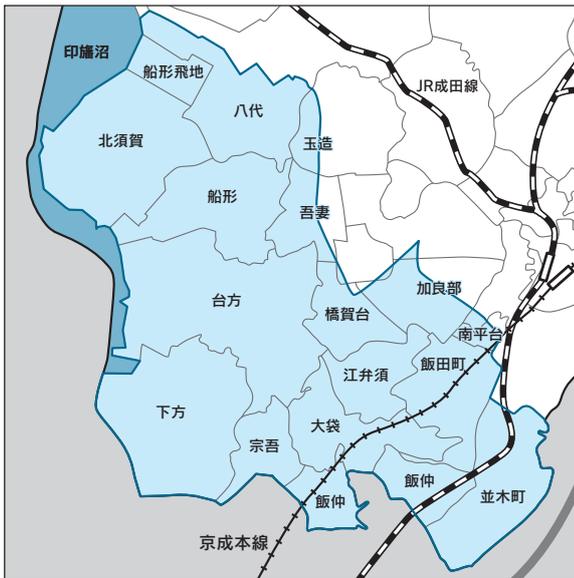
第2回

「ふるさとの歩み」では、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。

～成田市をつくった町と村～

## 公津村

## 宗吾信仰が支えた霊場の再建



公津村役場

張・改築に着手。檀家を回って浄財を募り、五霊堂・霊客殿などを建立しましたが、明治43(1910)年9月に門前で火災が発生し、供養堂をはじめとする諸堂が焼

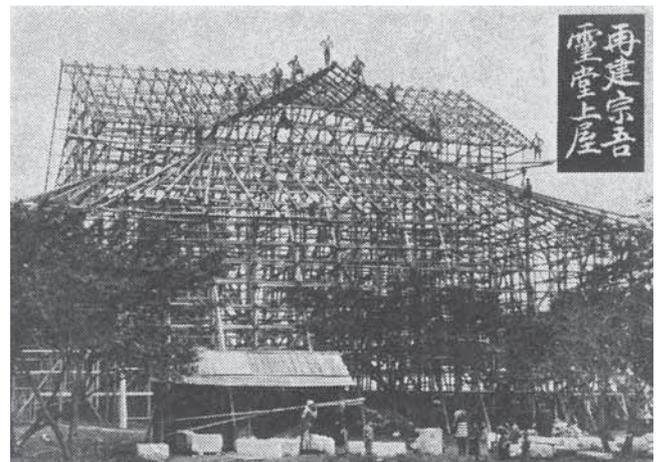
失してしまいました。照心は本堂の再建に取り組み、大正6(1917)年の上棟式、本堂完成後に行われた大正10(1921)年の入仏遷座式を挙げるなど、宗吾霊堂再興の基盤をつくり上げました。大正12(1923)年に照心の後継者として住職になった三好照嘉は、病気の早期診察と治療費の相互共済を目的として昭和7(1932)年に宗吾医療助産組合を設立。創立当初は30戸ほどでしたが、多くの人々の理解を得て、公津村と酒々井町の全戸が加入するまでに拡大しました。この組合は国民健康保険制度のモデルとなり、当時の内務省も注目し、視察に訪れるほどでした。

### 村の設立と産業

印旛郡公津村の設立は明治22(1889)年。下方村・台方村・江弁須村・大袋村・飯田新村・北須賀村・船形村・八代村・飯仲村・成木新田村の10村が合併することで誕生しました。村名は下方・台方・江弁須・大袋・飯仲の5村がかつて「公津村」と称していたことに由来しています。合併時の総戸数は574戸、総人口は2,773人で、村役場は台方に置かれました。村の産業は農業が中心でしたが、印旛沼沿岸の北須賀・八代・船形では漁業も盛んで、肥料として使われる藻草の販売などが行われていました。

### 宗吾霊堂の再興と医療組合の設立

木内(佐倉)惣五郎への信仰が今も生き続ける宗吾霊堂(東勝寺)は、明治初期には小さな供養堂があるだけでした。明治8(1875)年に住職になった田中照心は、この供養堂の拡



再建中の宗吾霊堂本堂(大正5(1916)年・「成田市史 近現代編」より)

### 編集後記

千葉テレビで7月2日に放送された「熱血BO-SO TV」、ご覧になりましたか?成田祇園祭を目前に控え、小泉市長と花崎町の囃子連・若者連がお祭りをPRするため、生出演しました。これは、ドキュメンタリー番組「日本の祭り」を千葉テレビが制作することになったことから、その番組づくりの一環として放送されたものです。日本の代表的なお祭りを後世に残そう、というコンセプトのこのドキュメンタリー。1年掛けて祇園祭の取材・撮影に取り組むということで、完成が待ち遠しい限りです。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年7月15日号 No.1199

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>